



J P C A

日本包装コンサルタント協会

〒104 東京都中央区築地4-1-1(東劇ビル)

社団法人・日本包装技術協会内

TEL:03(3543)1189 FAX:03(3543)8970

# 会 報

No.14

1996年(平成8年)10月

発行者 濱 口 啓 一

編集者 高 澤 昭 男

## ご挨拶

会 長 濱 口 啓 一

皆様方におかれましては、ますますご活躍の事と、お慶び申し上げます。

此の度、第四代会長を仰せ付けられましたが、固より浅学菲才、不徳の身、大任を背負うことなど覚束無く、会員各位の絶大なご支援を頼りに、その任を果たしたいと願っております。なにとぞよろしくお願い申し上げます。

扱て、今後の運営は会員の総意に従って参りたいと思っております。具体的には「全員参加」の運営を実現したいと考えております。現在本部で、隔月毎開催されております理事会も月例会とし、全員がお気軽にお集り頂けるようにとも思っております。ご参加頂きますようお願い申し上げます。そのために月例会の内容等についても一層の工夫を、アンケート結果も参考にさせて頂き充実を心懸けたいと考えております。

JPCAの目的及び事業についても改めて確認させて頂きました。会員各位の業務開拓支援を積極的に進めたいと考えております。

関係団体、企業などへのJPCA及び会員のPR活動などについても積極的に取り組みたいと思っております。

幸いにもJPIからも今後の事業について温かいご助言を頂いております。JPI各支部活動に積極的に参加させて頂きたいと思っております。

会員個人としてよりもJPCAが団体として行動することの方が効果的な事柄も多々あらうかと思っております。このような課題を汲み上げたいと考えております。

会員各位の業務基盤が、少しでも広げられ、豊かになることに役立つ活動を、と願っております。

なにとぞよろしくご指導、ご鞭撻を賜りますよう伏してお願い申し上げ、ご挨拶に代えさせて頂きます。

## 本年度上期の本部会議要点

本部事務局 高澤 昭男

1. 第54回拡大理事会 4月27日 人形町区民館 出席者11名。  
役員全員改選に伴い、選出方法の透明性を高めるため会員全員に出席を求めて拡大理事会を開催しました。役員候補者の選出は、今限りで役員を降りられる方及び70才以上の方以外の会員で、全会員より推薦のあった方の中から候補者を選任しました。
2. 第11回定期総会 5月25日 蔵前工業会館 出席者9名  
総会 総会提出の第1～3号議案は審議の上提案通りに承認されました。  
なお、会費規則第3条に基づくシニア会員の年会費は本年度に限り一般会員と同額の12,000円に据え置き、再検討案を来年度の総会に提出します。  
講演 松本 光次会員 ISO 14000sと包装  
田口 治平次会員 技術と技能  
懇親会 講演終了後に懇親会を開きました。
3. 新正副会長会議 6月1日 学士会館 出席者4名。役員分担を決定。
4. 第55回理事会 7月13日 学士会館 出席者7名。  
議題1 新入会員 菱沼技術士事務所 菱沼 一夫氏 55才  
飯田 " 飯田 俊男氏 59才  
2 JPI紹介 業務引合い 石原副会長担当  
3 今年度内理事会、研究懇話会予定 8/24、10/19、12/21、2/22、4/19  
4 業界、学会誌、包装技術誌への投稿斡旋 会長担当
5. 第56回理事会 8月24日 新場橋区民館 出席者5名。研究会出席者8名  
議題1 新入会員 尾立技術士事務所 尾立 良次氏 60才  
2 高知県立紙産業技術センター 紙複合容器講義 9/12、13 石原会員担当  
紙/紙ラミネーターの指導 次回 石原会員の結果により決める。  
3 東京パック 9月中旬にJPIの方針が決まる。 石原副会長担当  
研究、懇話会 講演 松本 光次会員 ISO 14000sと包装
6. 第57回理事会 9月3日 学士会館 出席者6名。  
議題1 セミナー日時、場所 平成9年2月13日 10時～17時 日本教育会館  
テーマ1 リサイクル法実施の展望 通産省  
2 リサイクル技術の動向 飯島会員  
3 省資源包材と加工技術 濱口会員  
委員会構成：委員長 原副会長、委員 本部全役員  
2 JPIの6支部でのJPI主催講演会企画  
積極推進の方針でアンケートで会員の講師参加希望をまとめる。  
3 97年JPI主催の関連4団体のシンポジウムメインテーマ企画依頼会として案を提出する。

## 業務幹旋の動向

業務幹旋担当 石原 昌具

濱口会長より、(社)日本包装技術協会からコンサルタントの派遣依頼が来ているとの電話連絡があり、7月13日の第55回理事会においてその概要を提示された。

提示の内容は、依頼元が(財)中小企業総合研究機構で、講演及び指導を求めているところは、高知県立紙産業技術センターとのことで、講演・指導の依頼内容は、医療、食品、工業材料他の用途における加工紙の需要動向と製品開発で、高知県立紙産業技術センター設置のテストマシンによる実習を含むとのことであったが、加工紙としての分野が余りにも広く、テストマシンによる実習にしても、テストマシンの詳細がわからなくては、実習の指導もできかねると思われるので、翌週15日に(財)中小企業総合研究機構に地域産業支援部の中村次長を訪問し、詳細について回答を求めたが、高知県立紙産業技術センターに問い合わせる回答するとのことであった。

この回答が届いたのが、7月末のことであり、8月に入って「容器包装を主体とする加工紙及び加工紙を用いた複合製品の需要と開発の現状」で講演し、高知県立紙産業技術センター設置のテストマシンによる実習は、センター職員の手で行い、当方はその結果についてコメントすることで了承を得た。

8月24日の理事会において、依頼元である(財)中小企業総合研究機構との折衝の結果詳細がわかったが、今回は期日(9月12・13の両日)が迫っており、取りあえず、石原副会長が講師を引き受けることとし、次回(11月に第2回の研究会を実施の予定)には最も適切な会員に講師を務めていただくことに決定した。

次回は、「出来上がった加工紙についての評価について」を予定しているが、高知県立紙産業技術センターの「21こうちかみわざ新商品開発研究会」の「コーター&ラミネーター研究部会」の会員は、製紙業者が多く、加工機を設置して実際に生産している企業は少ないとのことで、機器を使用する科学的評価を主体とするか、評価の方法(何を目的にして、何を評価するか)という基本的な問題を主体とするかについて、検討の上連絡することであった。

以上、今回実施された講師派遣について簡単に報告するとともに、次回のテーマについて講師を希望される方は、石原副会長まで連絡されたい。

連絡先：東京都目黒区青葉台4-2-13-405 石原 昌具

TEL・FAX 03-3481-3351

追補 東京パック会場に(社)日本包装技術協会の好意により会の専用コーナーが設けられておりますので、お立寄り下さい。

## 本年度上期の本部研究・懇話会要旨と今後の予定

研究・懇話会担当 原 明弘

### 研究・懇話会の開催とスピーカーなどのお願い

研究・懇話会はその名のように、会員相互の研鑽と親睦の目的で、昨年9月から始めた会で、これまで4回開きました。スピーカーは原則として会員です。クライアントを含め、一般の参加を歓迎しますが、会員の都合を優先し、開催日を、一般の方が集まりやすいウィークデイでなく、土曜日の午後に決めました。会費は会員も非会員も仲良く2,000円で、飲物、おつまみ付きです。また会員の方にはぜひスピーカーとしてご登場頂きたいと考えております。題材は研究発表に限らず近況報告でも、趣味の話でもなんでも自由です。

今後は隔月の偶数月に開く予定です。10月は10月19日(土)に新場橋区民館で、石原昌具会員から「オマーン国見たまま感じたまま」のテーマで話をして頂きます。

以降12月は12月21日(土)、来年2月22日(土)、4月19日(土)、いずれも午後2時半か3時頃から開催します。場所は中央区の区民館を利用していますが、その予約受付は前月からなので12月以降の場所は未定です。

ぜひ非会員の方もお誘い頂きご参加ください。お待ち申し上げております。

### JPCAだより(包装技術誌)

またJPIの機関誌「包装技術」に8月号以降、毎回「JPCAだより」のページを載せて頂くことになりました。9月号には会員名簿(電話・FAX、専門内容)、10月号には10月の研究・懇話会の開催案内、11月号には「オマーン国見たまま感じたまま」の要約を載せる予定です。ぜひご意見、ご要望をお寄せください。

### 資料送付

下記の各回について会員千円、非会員2千円で資料を郵送します。クライアントの方にもPRなさってください。申し込みは研究・懇話会参加、資料送付とも下記です。

FAX 0467-31-4450 (TEL 0467-31-4136) 原 宛

- 第1回 1) 松本 光次 「環境管理システムの原則と概要について」  
'95. 9. 5 2) 飯島 林蔵 「容器包装材のリサイクルと法規制について」  
3) 原 明弘 「鮮度と賞味期間の定量的関係と鮮度への定量的包装効果」
- 第2回 1) 中山 秀夫 「機能性包材の最近の動向と包装諸問題」  
'95. 12. 2 2) 本石 靖夫 「EVOHフィルムの新しい用途例」
- 第3回 1) 斎藤 龍太郎 「包装廃棄物問題の現状と課題 捨テル、集メル、焼ク、役立テル」  
'96. 3. 16 2) 奥山 晃一郎 「作業動作分析を適用した詰合せ包装設計とコストダウン」  
3) 朝岡 保雄 「私のデータベースよもやま話」
- 第4回 松本 光次 「ISO14000シリーズ環境マネジメントシステムの規格と包装」  
'96. 8. 24

## 本年度上期の関西支部会議要旨

関西支部 事務局 富賀見 久

### 1. 平成8年5月14日、第3回支部総会と61回例会を同日開催。

総会は過半数の出席にて成立し、議案書の事業報告、決算書を可決し、続いて新年度の事業計画、予算書を満場一致にて承認される。承認された議案書は支部全員に配布。

例会では、本部拡大理事会の報告として、4月27日に開催された拡大理事会の議事録が送られてきたので、読み上げながら、報告がなされる。

- イ) 拡大理事会開催に至る経緯。      ニ) 役員改選案。
- ロ) 平成7年度決算報告。              ホ) 総会は5月25日 於：蔵前工業会館。
- ハ) 平成8年度予算案。(未編成)

会員状況として支部長より、宮内氏が肝臓検査のため入院された。退院されたものと思われるが、確認に至っていない旨の報告がなされた。

この日の議事録郵送に際し、平成8年度会費払込の書類を同封し、全員に発送。

### 2. 平成8年6月26日第62回例会開催。

宮内氏逝去の件が報告される。5月24日午前11:00宮内氏が逝去され、有光支部長よりの連絡にて近隣在住の会員諸氏に電話連絡を取る。葬儀には支部長と大西氏が参列し、支部会員有志の香典を供えていただく。25日に本部での第11回総会があり支部長が出席、その席上宮内氏逝去の報告を行い、前例に従って会長名の弔電が寄せられ、葬儀の席上披露された。

第11回定時総会報告(有光支部長) 定時総会は出席13名、松本会長が議長で議案書通りに可決され無事終了。任期満了に伴う役員改選が行われ、選任された新役員の氏名が報告された。

支部関係では

副会長 有光 茂。理事 富賀見 久、脇谷 慶之。監事 村山 涼二。

今回の改選に際し、常任理事が廃止され、副会長による合議制にて運営されることになった旨の報告がある。この日の議事録に会員名簿を同封、全員に発送。

### 3. 平成8年7月30日 第63回例会開催。

本部での平成8年度第一回目の理事会議事録をもとに本部状況の報告がなされた。

関西支部組織について、本部組織が固まったことを受けて、支部においても連携した活動が望まれることが必至であり、支部長の提案を受けて検討し、新組織となる。

(支部長) 有光 (総務) 富賀見、花岡 (業務) 脇谷

(懇親・研究会) 村山 (特別プロジェクト) A-Pack-大西、震災対策援助-真多。

当日は濱口新会長を囲んでの懇談が行われ、運営方針が具体的に説明された。

支部からは① 総会議事録は会員全員に配送すべきではないか。

② 業務斡旋の情報公開を求める。

などの要求が出された。

## 本年度上期の関西支部業務幹旋の動向

業務幹旋担当 脇谷 慶之

京都市 折衝中

久留米市 //

## 本年度上期の関西支部勉強会の要旨と予定

懇親会、勉強会担当 村山 涼二

### 1. 懇親旅行

日 時：1996年10月21日(泊)22日

場 所：彦根市 かんぽの宿彦根

勉強会：「カートカン」について 真多 博志

会食懇親会

22日は観光

兵庫県立工業技術センター 有機材料部 山崎 潔氏(近畿包装研究会世話役)も参加

### 2. 本年度の勉強会のテーマ

「包装憲章」 有光 茂

「HACCPについて」 村山 涼二

## オマーン国見たまま感じたまま

石原 昌具

1994年9月から10月にかけてJETROからの依頼で、11日間オマーン国へ出張してきた。

### オマーン国の自然

アラビアといえば、砂漠地帯だけといった感覚であるが、オマーン国は違っていた。

アラビア半島の中でもオマーン国は海岸線から50~100km奥に入ると海底のプレートが隆起した山岳地帯になっており、その山岳地帯に降った雨が地層を伝って海岸地帯に流れてくるので、所々にナツメヤシの茂るオアシスができ、そこに集落が開けてきた経緯があり、海岸地帯は砂漠というよりも緑が多く、オマーンの国旗の下5分の2に、緑色が採用されているように、穀物は別にして、野菜・果物の類は自給可能なばかりでなく、他の湾岸諸国にも輸出しているそうである。また、山岳地帯は3,000m以上の所もある岩山だが、1,000m級までは所々にナツメヤシが茂る集落があり、その中をファラジと呼ばれる水路が流れて水を供給している。

### オマーン国の日常生活

イスラム教の教えに従って官庁は木曜日と金曜日が休みで、一般の商店も金曜日は完全に店を閉めて休んでいるが、スークと呼ばれる市場は金曜日でも午前中は営業しており、活気ある状態を見学することができた。

官庁の勤務時間は、午前7時半から午後2時半までで、昼休みはなく、昼食は退庁後に家庭に帰ってから家族と一緒にゆっくりとるようで、日本のサラリーマンとはその生活のゆとりが違ふ。企業や商店などは一般に午前8時に始業、午後1時半頃から昼休みに入り、午後4時半から7時位まで営業している。

日中の気温が40℃を超える亜熱帯地方であれば、暑さの厳しい日中はゆっくり休む習慣は当然かもしれないが、工場などの勤務時間も8時~1時、4時~8時の2直制が多く、生産性問題はないのかといささか気になった。

### オマーン国の企業と商品について

オマーン国は、1970年7月に現カブース国王が王位を継承してから急速に近代化し発展してきた国であるが、その発展状況は著しく、昨年設計資料からは、今年状況を察することが困難なほどである。

訪問した企業のうち、伝統的食品(ハルワ、デーツ・ハニーなど)企業は小規模で完全に手作りであるが、乳業・製菓など洋風の食品企業は大規模で近代的に自動化していた。

加工食品の輸出経験が少ないためであろうが、日本あるいは欧米諸国に比べオマーン国の食品包装はきめ細かい配慮に欠けている。

そのため、食品の品質保持や内容物の表示、取扱の注意表示という基本的な面で、問題を生じる恐れがあり、日本に輸入するとすれば、これらの基本的な面の指導を十分に行う必要がある。

人との出会いは挨拶の言葉とともに握手で始まるという、人なつこく親切なオマーンの人達、オマーン国は、美しくゆとりのある国というのが私の偽らざる印象である。

## 役員分担

会長	濱口啓一	
副会長	有光茂	関西支部長
〃	石原昌具	業務幹旋、東京パック担当
〃	高澤昭男	事務局担当
〃	原明宏	総会、理事会、会報、名簿、財務 研究、懇話会、セミナー担当 包装技術誌への投稿担当
理事	富賀見久	関西支部事務局担当
〃	脇谷慶之	〃 業務幹旋、会員増強担当
〃	本石靖夫	業務幹旋、東京パック、財務担当
〃	飯島林蔵	業務幹旋、東京パック担当
監事	村山涼二	関西支部 懇話会、勉強会担当
〃	高橋文男	研究、懇話会、セミナー担当

新役員一同、微力ではございますが、本会の設立趣旨に基づき尽力いたす所存でございますので、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

## 編集後記

会報担当が変わりました。東京パックまで時間の余裕がない上に、不慣れのために編集内容について不備な点多々有るかと思えます。今回は会の内部の動きを会員の皆さんに知って頂くことを重点に致しました。今後の会報について御意見、御希望をお寄せ下さる様にお願ひ致します。

投稿について 自由投稿として1～2頁(400字詰原稿用紙3～6枚、又はワープロ原稿の場合は1頁当たりタテ36×ヨコ40字画)を予定しております。

8頁立てで年2回発行とし、次回は97年4月発行の予定です。

連絡先 〒338 埼玉県与野市大戸5-17-16 高澤 昭男

TEL=FAX 048-832-9362